

202. 江州御領郷鑑について

ごうしゅうごりょうごうかがみ

1. はじめに

近江の近世支配は、彦根藩、膳所藩の外、多数の藩が入り乱れていた。この雄藩以外の中小の藩について、その支配の実態は不明な点が多いと思われるが、最近世に出た史料として享和9年(1724)大和郡山藩の「江州御領郷鑑」という文献がある。この史料は、先頃出版された平凡社歴史地名大系25滋賀版の文献解題で、彦根藩の「大洞弁天寄進帳」おほぼらべんてんきしんちように比肩しうる史料、との評価が下されている。簡略ではあるが、ここにその概略を紹介しよう。

2. ルーツをたずねる

本書は、江戸時代中頃から明治初年にかけて近江に106ヵ村の領地を抱えていた大和郡山藩によって編纂され、所有されていたものと思われる。

大和郡山藩は、現在の奈良県大和郡山市に城があって、藩主はあの柳沢吉保を出した柳沢氏であった。また、106ヵ村は、享保9年に柳沢氏の支配に入る前は、本多氏が所領としていた。

藩では、近江の五郡のうち、高島郡と東浅井郡を海津手村々、蒲生郡、神崎郡、坂田郡を金堂手村々として支配していた。海津とは高島郡マキノ町海津であり、

金堂とは神崎郡五個荘町金堂で、そこには陣屋がおかれていた。本書は、そこを巡検するなどの際に、手元置かれた本のように考えられる。

大和郡山藩には、奈良県、三重県、和歌山県にも領域があって、その村々の郷鑑もすでに刊行物に^①利用されている。

さて、本書の持ち主は、立教大学名誉教授の林英夫氏で、林先生は、本書を名古屋の古本屋で30余年前に見付けられたもので、元は大和郡山藩の要職にあったお家から手放されたものと考えられる。以来、本書は最近まで滋賀県の出版物には使用されず、立教大学の卒論資料などに利用されてきた。

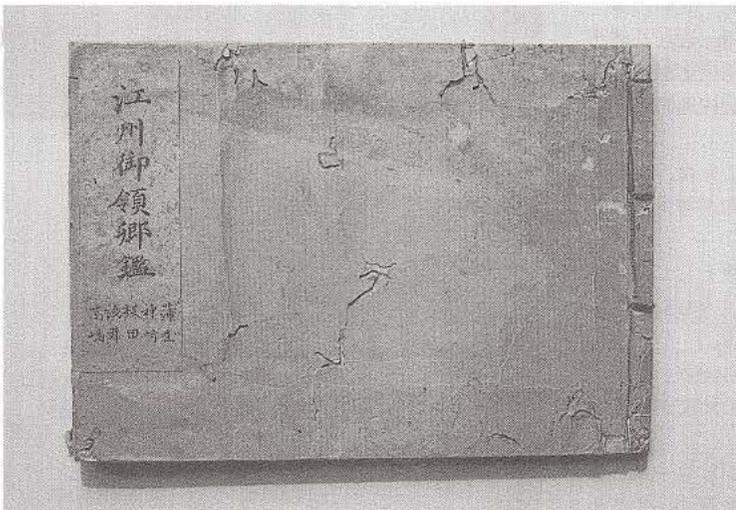
たまたま、「近江神崎郡志稿」に大和郡山藩の史料が出てくることから、それ以上の根本史料は大和郡山市にないか、現在知られている村明細帳以外にも史料が残っていないかと思い、大和郡山市で柳沢家の文書を保存する柳沢文庫に出掛けたところ、林教授の門下生が寄託したものと推測されるコピーを見ることができた。それは大和郡山市出身の立教大学卒業生が林教授の写真版をコピーしたものであった。

柳沢氏は、それまで郡山藩を支配していた本多氏に代わって近江に転じ、本書に載っている村々を所領としたもので、交替の際に本書の元本である村明細帳を提出させたのである。それに基づき編纂された、いわばダイジェスト版だったわけである。

3. 御領鑑の内容

村明細帳とは江戸時代、村々で作られて役所へ出された村の諸記録で、幕府の巡検使がつかわされたり、領主が交替したとき、あるいは代官が村を巡回するときに書かれたものである。またの名を差出帳、書上帳、さしだしちよう かきあげちよう村鑑ともいい、その多くは幕末に編纂された。

内容は、村高、年貢高、田畑屋敷、竹やぶ、山林の面積、用水、川や道の普請、つまり工事のこと、山の入会のこと、家数、人口、牛馬数、船数、農業の合間の仕事、特産品、医師の数と名前、酒屋の数や石高、問屋の数、職人の職種と人数、商人の



「江州御領郷鑑」表紙

数と売り物、獵師の数、神社仏閣の宗派、本末、敷地面積と年貢賦課の有無、助郷村高、相領主名などで、村ごとにまとめてある。

特に、村高のほとんどが、慶長7年(1602)検地を基礎にしていることに興味をひかれる。また現代と比べて、農地や人口の重要性はわかるとしても、馬や牛の数、酒屋や医師の数、神社仏閣の税や敷地がいかに関題にされていたかがうかがえる。

4. 史料としての価値

106ヵ村の中には、史料の乏しい村もあるかと思われるので、この史料が世に現れたことは朗報であると思われる。つまり、この鑑だけでも、近世近江史研究に必須の史料であると、林先生の言葉である。

また、滋賀大史料館所蔵文書には、本書の元になった大和郡山藩領の村明細帳が数々現存しています。それらの大和郡山藩領の村々の明細帳は大阪大学の原田敏丸教授が調査されている^⑧如く、近江北部で現在知られている村明細帳の中核をなしていることは重要である。

そして、明細帳それ自身は、神崎郡志稿、東浅井郡志、坂田郡志、蒲生郡志、高島郡志などにいくつかの村々の名があがっているが、本書によって、村明細帳が提出されていることがわかっていながら、まだ知られていない明細帳の発掘が期待される。というのも、本書は村明細帳に基づいて編纂されたからである。それらの史料がたくさん埋もれているかと思われる。

思うに、近世近江の領地は、細かく分割支配されていた。それは、京都での滞在費の捻出と、各藩どうしの相互牽制のためであろうが、わけてもこの藩は、政治的に、特に交通上の大切な拠点を圧えていたのではないだろうか。

例えば西近江路のマキノ町周辺、海津、塩津の港、中仙道沿いの柏原、醒井、五個荘町周辺、近江八幡市周辺に。高時川下流の湖北町周辺も北國街道沿いであり、伊吹町上野や浅井町の村々は北國脇往還沿いというふうな。

さて、この本の内容を深く吟味することは、今始まったものと考えているが、どういう方向が考えられるであろうか。

例えば、村社会の構造を把握する史料として、当時の村社会の基本とは何か、そしてそこは今も変わらないものがあるのかないのか、課題である。

また、領地が五郡にまたがり、近江の湖東、湖西、湖北の比較、さらには他の領主支配との比較ができる点も面白い。

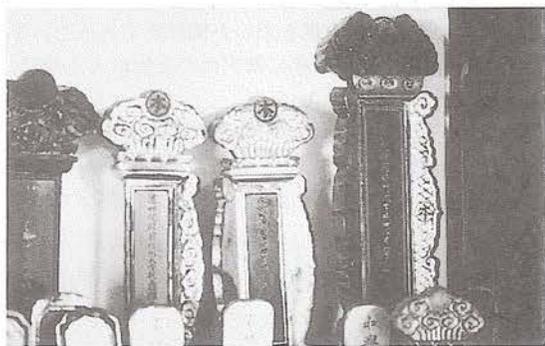
さらに、村明細帳の記述内容とは必ずしも一致しないと考えられるが、その比較検討も興味深く、くりかえすが明細帳の具体事例の発掘が待たれる。



1



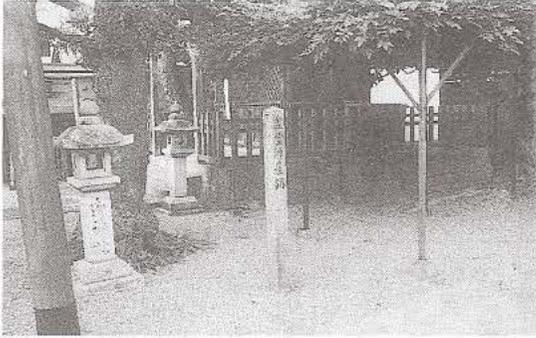
2



3



4



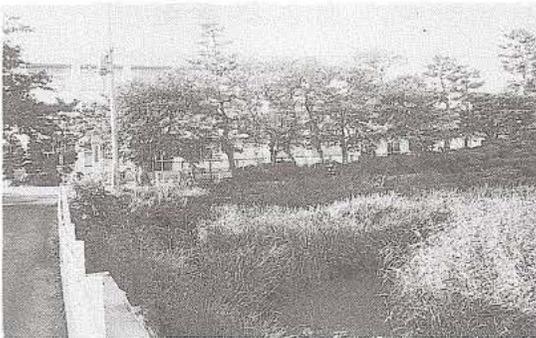
5



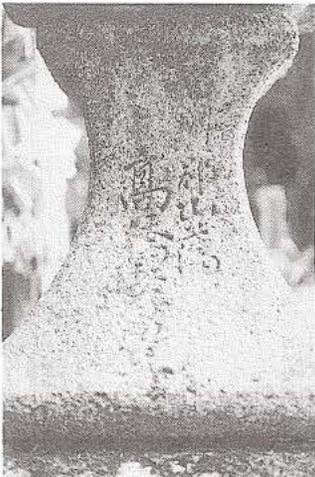
8



6



7



9

本書は、支配の側からの記録であり、差別されてきた人々についても、永荒地に住んでいたとか、人数などリアルに書かれている。しかし、この人達をどうとらえるか、正しい歴史認識の上に立って考え、研究していく必要があるかと思われ、比較的史料の乏しい部落史の研究にもプラスになると考えている。

5. おわりに

近年は、江戸時代の見直しがさかんである。日本の発展の基礎を近世の政治、文化や経済に求める声が高いからであろう。しかし、古いものが捨てられていく現在、かなりのスピードで近世の資料も失われているようである。近江の場合も、彦根藩や膳所藩の史料は多数残っているようであるが、その他の藩にまつわるものは捨てられているのが現状であろう。今後の史料発掘が待たれるところである。

〔付記 滋賀県神社庁伊香支部発行の「伊香郡神社史」には西浅井町庄の日吉神社に、享和二年（一八〇二）現在殿建替の際に郡山藩主より米五俵の寄進があった（社有文書）と記している。〕（中川 真澄）

注

1. 歴史地名大系 三重県版 平凡社
2. 原田敏丸 彦根論叢255, 256号

小倉栄一郎教授退官記念論文集所収
「近世近江の農業管見」

3. 五個荘町教育委員会編 五個荘町金堂
伝統的建造物群保存対策調査報告
4. 近江神崎郡志稿

写真説明

1. 大和郡山市にある柳沢文庫。柳沢家の書籍が保存されています。
2. 再建された大和郡山城の大手門。
3. 能登川町種村善教寺の本多氏の位牌。柳沢氏以前の領主本多家を記っています。
4. 五個荘町金堂の元陣屋にあった長屋門。文化10年(1813)に建てられ、明治9年同町勝徳寺に移されました(注3)。
5. 金堂陣屋跡地に立つ稲荷社。
6. 稲荷社の境内にある石碑。大正2年建立。碑文によれば、この社は、柳沢氏が入部の時に郡山城から勧請されたものといひ、陣屋の敷地は千余坪ありました。
7. 元海津陣屋跡と言われるマキノ東小学校付近。今も堀が校舎をとりまわっていますが、以前はもっとあったそうです。
8. マキノ町海津の天神社の稲荷さん。総ヒノキの無節といわれ、陣屋から移されました。
9. 同じく天神社にある「和州郡山藩 高橋某」と名のある石灯籠。文化年間のものです。

別表

滋賀県内大和郡山藩の村名、石高、家数、人数の一覧表

蒲生郡 27ヶ村		高15340石余	
家数	1830軒	人数	8286人
寺内村	375石	東鍛冶屋村	218石
船木村	1206石	多賀村	327石
市井村	123石	香庄村	410石
常楽寺村	1810石	慈恩寺村	523石
西庄村	1960石	浅小井村	310石
宇津呂村	48石	中村	386石
八木村	161石	東村	534石
中小森村	2200石	東横関村	357石
鷹飼村	500石	杉森村	292石
大手村	200石	嶋村	284石
綾戸村	755石	駕輿丁村	416石
林村	1124石	倉橋戸村	378石
清水鼻村	125石		

神崎郡 13ヶ村		高7743石余	
家数	1238軒	人数	5472人
北之庄村	1126石	金堂村	889石
川並村	1003石	石馬寺村	592石
猪子村	312石	林村	353石
佐野村	897石	佐生村	276石
長勝寺村	289石	種村	967石
神郷村	680石	和田村	200石
五位田村	153石		

坂田郡 13ヶ村		高6172石余	
家数	1466軒	人数	5419人
長久寺村	83石	柏原村	2141石
目河内村	77石	醒井村	528石
上野村	766石	本郷村	585石
大鹿村	965石	山室村	100石
能登瀬村	796石	勝村	280石
河崎村	224石	乾村	123石
国友村	886石		

東浅井郡 22ヶ村		高10679石余	
家数	1652軒	人数	7348人
今庄村	255石	法楽寺村	180石
佐野村	370石	宮部村	790石
唐国村	629石	川道村	1708石
新井村	516石	大浜村	258石
野寺村	195石	下八木村	243石
弓削村	503石	香花寺村	551石
小観音寺村	101石	小倉村	661石
青名村	150石	五ノ坪村	555石
津ノ里村	543石	塩津浜村	540石
祝山村	340石	沓掛村	369石
中村	337石	庄村	962石

高島郡 31ヶ村		高18173石余	
家数	2351軒	人数	10699人
三尾里村	571石	下古賀村	73石
太田村	900石	霜降村	395石
田井村	654石	五十川村	747石
梅原村	248石	源清水村	1021石
大沼村	495石	中庄村	1032石
新保村	824石	沢村	1552石
森西村	347石	辻村	211石
石庭村	355石	知内村	912石
蛭口村	1199石	寺久保村	374石
牧野村	458石	白谷村	221石
上開田村	599石	西浜村	1506石
海津中小路町	276石	海津中村町	51石
海津東町	368石	下村	537石
浦村	497石	山中村	532石
在原村	169石	小荒路村	562石
野口村	312石		

一石以下は切り捨てています。